

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】令和7年1月23日(2025.1.23)

【国際公開番号】WO2022/190974

【出願番号】特願2023-505332(P2023-505332)

【国際特許分類】

B 4 3 K 29/02(2006.01)

【F I】

B 4 3 K 29/02

F

10

【手続補正書】

【提出日】令和7年1月15日(2025.1.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

上記(9)の熱変色性筆記具では、上記(6)の摩擦体ユニットの内部空間に形成された隙間を有効に活用することができる。すなわち、上記(6)の摩擦体ユニットの保持部の内部空間には、空気通路の一部を構成する隙間が形成される。ここで、摩擦体ユニットの空気流路は、熱変色性筆記具から取り外された摩擦体ユニットを、子供が誤って吞み込んだ場合に機能を発揮する。一方、熱変色性筆記具に摩擦体ユニットが装着された状態において、摩擦体ユニットの空気流路は、何ら機能を発揮しない。そこで、上記(9)の熱変色性筆記具では、摩擦体ユニットの空気流路の一部を構成する隙間に、熱変色性筆記具の第1結合部が収容される構成とし、この隙間を有効に活用している。

20

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0033

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0033】

図1に示されるように、第1実施形態の熱変色性筆記具1は、例えば、出沒式熱変色性筆記具であり、軸筒2の内部には、図示しないレフィルが上下方向に移動可能に収容される。レフィルの内部には、熱変色性インキが収容される。レフィルの先端には、熱変色性インキを吐出することが可能なペン先が設けられる。熱変色性筆記具1は、ペン先の出沒機構を備える。クリップ2dを下方にスライドさせることにより、軸筒2の下端からペン先が突出され、又は軸筒2の内部にペン先が没入される。図1は、軸筒2の内部にペン先が没入された状態を示す。このペン先の没入状態において、クリップ2dを下方にスライドさせることにより、軸筒2の下端からペン先が突出された状態になる。このペン先の突出状態において、クリップ2dを下方にスライドさせることにより、軸筒2の内部にペン先が没入した状態になる。

30

40

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0115

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0115】

・作用効果

50

上述した第3実施形態の摩擦体ユニット3では、通気孔44と、内部空間41と、内部空間41の下方の開口とによって、保持部4の内外に通じる空気流路が形成される。この空気流路により、子供が誤って摩擦体ユニット3を呑み込んだ場合でも、子供が呼吸するための気道を確保することができる。特に、内部空間41及び下方の開口を空気流路に利用することで、十分な空気の流通が可能となる。このような空気流路は、保持部4の側壁の外面から内側に形成されるので、保持部4のデザインの自由度を制限しない。したがって、第3実施形態の構成によれば、摩擦体ユニット3及び熱変色性筆記具1のデザインの自由度が向上する。

10

20

30

40

50